

【四川大地震について】

5月12日午後2時16分、中国は未曾有の大地震にみまわれた。四川省の汶川市を震源地とするマグニチュード8の「四川大地震」であった。中国のほとんどの地域のみならず台湾でも大きな揺れが感じられたほどの凄い地震であった。幸いにして東北部の大連周辺では全然感じることはなかったが、北京でも上海でもその地震を感じたと地元の新聞には書かれていた。

中国政府は、死者は4万75人、負傷者は24万7645人、行方不明者は3万2361人と発表した(5月20日)。最終的な死者は7万人を超える見通しと、新華社が伝えた。また同社によると、全国で約536万戸の建物が倒壊し、約2142万戸が一部損壊、1234万人を超える人が避難していると伝えている。

新聞やテレビでは、毎日多くの人々が奇跡的に生還を続けていると報道していたが、その中でも次のような記事が目を引いた。

「愛したことを忘れないで」

一男児守り死亡の母、携帯に遺書一

「お母さんのことを忘れないで」。身をていして赤ちゃんを守り、冷たくなった母親の手にあった携帯電話には、最後の力を振り絞った1行の遺書が残されていた。このように20日の新華社通信が報じた。

この母親は最大被災地の一つ、四川省北川県綿陽市で、地震発生翌日の13日、四つんばいになった格好で遺体が発見された。遺体は倒壊した建物に圧迫されており、救援隊は立ち去りかけたが、何となく気になり、ふと遺体の下のすき間に手を差し入れたところ、温かいものに手が触れた。「赤ちゃんが生きている！」。

救援隊員が叫び、救出作業が再開。生後3～4ヶ月とみられる無傷の男の赤ちゃんが毛布にくるまれて発見された。救援隊員が母親の体を調べると手に握られた携帯電話の画面に、1行のメッセージが残っていた。「赤ちゃん、もし生き延びてくれているのなら、私があなたを愛していたことを絶対わすれないで・・・」。子を思う母親の愛の深さに、救

援隊員も思わず涙を落したという。

地震が発生してから1週間後の19日から3日間は「全国哀惜日」として国民全員が喪に服することとなり、この3日間北京オリンピックの聖火リレーが中止され、公共関連機関は半旗を掲げ、娯楽活動を停止した。私たちの学校でも19日には地震が発生した午後2時16分には3分間の黙とうをささげた。この時間には全国で自動車や列車など警笛を鳴らしたと伝えられている。

地震が発生してから連日どのテレビを見ても娯楽番組は中止され、地震に関するニュースばかりで、5月中はこの状態がずっと続いた。その徹底さには驚かされた。また全国的な募金活動が行われ、当校でも教職員・学生が一丸となってその活動に協力した。その様子を地元のテレビ局が取材に訪れ、私も記者のインタビューを受けたりした。

私が教えているクラスの学生たちに、今回の地震についてどう感じられたか先日(5月22日)文章を書いてもらった。彼らは日本語を勉強してまだ一年半位しか経っていないので十分意を尽くしたとは言い難いが、どの文章も真摯な心と国を思う中国人らしさを感じることできるのではないかと思います。そのうちの何人かの学生の作文(原文)を紹介したい。

○ 地震が起こった時間は5月12日でした。地震の情景はとても大変だった。当日、M8クラスの地震がありました。今、6万人ぐらい死んでしまいました。30万人ぐらいひどい怪我をしました。私にとって、とても悲しかったです。今、震災の被害状況の調査が進むにつれて、被害の深刻さが次第に明らかになりました。建物は全部壊されてしまいました。住宅問題についても困りました。救援物資を提供した人は大勢いますね。私たちにとって、今度もいい勉強になりました。(陳債・女)

○ 2008年5月12日14時28分、中国の四川省で大地震が起こってしまいました。今度の地震は8.0級ですから、世界の人々をおどろかせています。今度の地震は中国にとって本当に厳しい挑戦です。

四川省のほとんどの建物は壊れてしまいました。特に、学校です。大勢の学生は倒れた建物の中に閉じ込められています。たくさんの子供はかわいそうな孤児になりました。軍隊がいるから本当に助かりました。一人、二人、三人、ひとりふたり救われました。軍隊は救いを求めている声を聞くと、すぐ手を尽くして救い始めます。彼らのおかげで、もっと多い人はこの世界に生きて行きます。今まで6万7千は私たちを離れました。この後、もっと大勢の人は私たちを離れるかもしれません。私たちは被災地区の人たちに一心に祈ります。今度の地震によって、私は何か分かりました。それはもっと命を愛惜していきます。よく勉強して行きます。がんばりましょう！
(王芳・女)

○ 2008年5月12日午後2時28分に四川で大地震が起きました。M8クラスの地震です。この地震で多くの人の家とか親戚がなくなりました。死んだ人が今6万人を超えました。とてもひどい災難です。被害者を助けるために私の学校も募金をしました。国は軍隊を派遣して、被害地域へ行って被害者を助けます。被災者は次々に助けられて、私の気持ちもよくなりました。人を助けるうちに、余震が絶え間なく起きました。でも軍隊とか医者とかだれでも逃げませんでした。それは感心されています。私は何もやってあげられません。ただ、被害者のために心から祈ることができます。まもなく新しい四川が建てられることを信じています。(湯婷・女)

○ 地震が起こった当日(2008年5月12日)は普通の日で、何の異常もなくみんなは仕事をして、勉強して、生活して、14時28分の時、急に地震が起きました。大勢の人が死んだ。大勢の子は親が亡くなりました。大勢の親は自分の子がなくなりました。翌日、私はテレビでそれを知りました。私の心は痛い。四川の人民がかわいそうな気がします。私は電話でそこへ応募しました。50元だけです。同時に世界各地からの募金、救援軍隊も大勢です。大勢の人がその災難から逃れました。中国人、がんばれ。四川人ががんばれ。もう一回家を建てろ。
(李秀峰・男)

○ わが国で5月12日午後2時28分に大きな地震が起きました。ひどい被害を受けた地区は四川省在をはじめ、広州、重慶などです。今度の地震はだ

いたい山に囲まれた山村で起きました。そのうちで最も深刻な県は汶川県です。最新統計によると、死者は2万人を超えているそうです。今度の地震はわが国の多方面に大きな影響をもたらしました。経済の面に深刻な損失がありました。幸い、中国人は愛をもって、被害者に募金をしたおかげで、その困難さを減っています。多くの人々の命を守りました。この地震は大きな災害を与えたといっても、我々はそれに倒れられません。勇気を持って戦います。わが国の経済などの面で、さっそく回復できて、私たちの生活も前よりさらによく改善できると思っています。私たちは大地震に勝ちました。私たちにとって怖いことはないでしょう。中国、がんばれ。中国人、ファイト。(刘敏華・女)

○ 2008年5月12日に四川の汶川県で8.0級の地震が起きました。今までに死んだ人は63、831人位です。この地震は私を悲しませました。学校は地震救済のために募金活動をしました。今度の地震は私にとって心から何か人生の意義が分かりました。よく毎日を過ごし、成功にはよく勉強しなければなりません。金持ちまでの日に社会のために有意義なことをします。私は私たちの国を愛します。中国頑張れ！この言葉は北京の天安門の広場で老人から子供まで皆がずっと叫んでいました。テレビによって広く紹介されました。その日は被災者のために記念すべき日となりました。5月19日～21日、全国哀悼日。(江道余・男)

これらの学生が一生懸命書いた文章から何かを感じ取ってもらえればと思う。私自身今回の地震とそれを通して見ることでできた中国人の考えに、これまで持っていた固定観念を変えざるをえないような面が多々あることに気がついた。

私の大連での滞在日時もあとわずかになってきた。私の「大連便り」は間もなく終了します。これまで読まれてきた皆さんからのご感想やご意見など「わんりい」編集部宛にお寄せください。